

水害から人々の暮らしを守る工夫

聖園女学院中学校

一年 植松 舞花

私は今回、水に関しての二つの経験から知ったことや感じたこと、そしてそれらについて自分なりに調べ、学んだことをまとめた。

一つ目は、遊水地についてである。遊水地とは河川堤防の一部区間を低くしておき、そこからあふれた洪水を溜め、地域への水害の被害を軽減させるためにつくられた池のことである。私は藤沢市に住んでおり、小さい頃から公園が好きで毎週のように家族に「引地川親水公園」に連れて行ってもらった。この公園は、子ども達に川に親しんでもらおうと引地川沿いに造られ、湿性植物や桜並木、芝生広場などがあり家族でゆっくり楽しめる。四季折々の植物や昆虫、野鳥も観察でき、川では鯉が優雅に泳ぎ、空を見上げるとカモメがたくさん飛んでくる。

私はこんな自然あふれる公園の景色を見て、毎回いやさ
れている。そしてある時ふと、次のような心配事が浮か
んだ。大雨が降った後に引地川の水位が上がり、この公
園や周辺に水害の心配はないのかと。そのことを父に聞
くと、「この公園には遊水地があるから大丈夫だよ。」
と教えてくれた。このことを思い出し今回詳しく調べて
みると、私たちがいつも止めている駐車場とそのとなり
にあるサッカー場が、全体で約二十八万立方メートルも
の水をためることができる遊水地であることがわかった。
その遊水地に実際に水がたまった様子を見たことはない
が、洪水時の写真を見ると駐車場やサッカーゴールは大
量の水で見えなくなっており、辺りは一変していて驚い
た。つまり普段は私たちが便利に使える土地が、洪水時
には遊水地としての役目を果たす土地へと変わる。とて
も効果的な土地の使い方であると思い、感心した。この
遊水地は、昭和五十八年から平成五年までの約十年間か
けて作られたということから大変な取り組みであったこ
とがわかり、まわりの人にも伝えていきたいと思った。
二つ目は、「雨水貯留管」についてである。これは、
大雨が降った時に道路や家に水があふれないように、一

時的に水を貯めておくものである。この貯留管の存在は、母の体験談から知った。石名坂善行線という道路は急坂で囲まれている、大雨の日には道路に水がたまることしばしばあった。母が自転車で通ったその日は大変な大雨で、自転車のタイヤがかなり水に沈むほどだった。恐る恐る自転車で走行していた母であったが、隣を通る車が跳ね上げた大量の水が次々と勢いよく全身にかかり、恐怖を覚えたというのだ。しかし今はこの道路の地下に「山野神雨水貯留管」が作られたおかげで、私は今まで一度もこの道路が水であふれているのを見たことがない。これは地下二十メートル程の深さにあり、長さは五九六メートル、そして約三〇〇トンもの量の雨水を蓄えることができる優れたものである。藤沢市は「雨に強いまちづくり」推進のため、雨水管整備や治水安全度の向上などに取り組む「湘南ふじさわ下水道ビジョン」を二〇一一年に策定し、請負金額約十六億円をかけたこの工事はその一環である。これを機に、市内に整備されている他の貯留管についても調べたり、実際に行ってみたりしたい。

今回「水」について自分なりに調べ考えることができ、

よい学びとなった。水は人類が生きるために不可欠であり、またいやしの効果もある大変貴重なものだ。私たちがこの貴重な水を守っていくためにすべきことは数多くあるが、私は節水をすること、食器の油分を拭き、なるべくきれいな状態で排水して水を汚さないことを常に心がけて過ごしている。

私たちが日々きれいな水を飲み、使用し、水害の心配なく過ごせていることはけっしてあたりまえではない。人々の暮らしを守るために、綿密な計画を立て、工事を行ってくださる方々が数多くいらっしゃることを改めて感じた。感謝の気持ちを持ち、自分にできる水の取り組みを考え、継続していきたい。